奈良県立万葉文化館　展覧会開催実績（令和５年）

特 別 展　「万葉歌から生まれた美の世界―杉岡華邨の書を中心に―」

会　　期：令和５年４月11日（火）～５月28日（日）（開館日数：42日間）
会　　場：奈良県立万葉文化館（日本画展示室）
主　　催：奈良県立万葉文化館
協　　力：奈良市・杉岡華邨書道美術館、下北山村教育委員会
入館者数：3,359名（1日平均80名）

【展覧会趣旨】

奈良県吉野郡下北山村出身の杉岡華邨（1913～2012）は、「かな書」の第一人者であり、平成12年（2000）には文化勲章を受章している。

令和５年は華邨の生誕110年の年にあたり、これを機に開催する本展は、奈良市杉岡華邨書道美術館に所蔵されている華邨の書と、それに関連する万葉文化館所蔵の「万葉日本画」をあわせて展示し、書と絵画で『万葉集』の情緒豊かな世界を紹介するものである。華邨は書の題材として万葉歌を好んで取り上げ、代表作にも多く見られる。

展覧会チラシ

また、日本画家の中路融人（1933～2017）との合作「万葉の花」「最上川」や絶筆となった「近江京感傷」などの代表作を中心に展示し、華邨が貫いた書の道を振り返る。その他、万葉文化館のコレクションのなかから、平安・室町時代の古筆切や江戸時代の写本などの貴重な資料も展示し、『万葉集』が生み出した美の豊かさを紹介する。

【関連イベント】

４月16日、５月５日には、稲垣小燕氏（書家・一般社団法人小燕会理事長）を招き「墨と筆で木版に文字を書こう」を開催した。稲垣小燕氏のアドバイスを受けながら、参加者は思い思いの文字を木片に書き入れていた。当日は合計100名を超える参加があり、子どもから大人まで多くの来館者に書の体験をしていただいた。また、４月11日～16日には、小燕会・社中展「そらみつ」を企画展示室にて開催した。

４月16日、19日、５月17日には、担当学芸員によるギャラリートークを行った。５月13日には、奈良まほろば館（東京都港区新橋1-8-4　SMBC新橋ビル2F）で出張講演「杉岡華邨と中路融人–響き合う書と絵画–」を行った。

特 別 展　「近代日本画の流れ―光ミュージアムコレクションより―」

会　　期：令和５年８月５日（土）～９月24日（日）（開館日数：43日間）
会　　場：奈良県立万葉文化館（日本画展示室）
主　　催：奈良県立万葉文化館
特別協力：一般財団法人光ミュージアム
企画協力：株式会社アートワン
入館者数：2,782名（1日平均64名）

【展覧会趣旨】

文明開化を迎えて目まぐるしく変化する明治の世。日本画家たちは、伝統を継承しながらも新たな時代にふさわしい絵画の創造のため筆を揮った。

岡倉天心が主宰した日本美術院では、横山大観、下村観山、菱田春草ら新鋭の画家たちが画壇を賑わせる。天心没後は、一時休止していた美術院が再興し、安田靫彦や前田青邨など次世代の画家が台頭する。また、京都の画壇では、竹内栖鳳とその門下が活躍しており、特に上村松園は、東京の鏑木清方と並び称され近代美人画を牽引した。よりよい作品を制作するために研磨を重ねた画家たちの思いは、加山又造や東山魁夷など、戦後を代表する作家に引き継がれて今日に至る。

展覧会チラシ

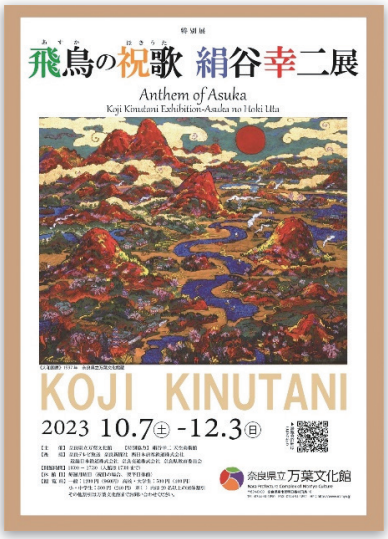
本展では、岐阜県高山市に所在する光ミュージアムの所蔵する近現代の日本画コレクションを中心に近代日本画の流れを紹介。当館所蔵の「万葉日本画」を描いた作家たちに紡がれた日本画の軌跡を辿るものである。

【関連イベント】

展覧会初日の８月５日には、光ミュージアム学芸員・今泉たまみ氏によるオープニングギャラリートークを開催した。明治から戦後を代表する画家たちの作品を中心に、近現代の日本画の流れをわかりやすく解説していただいた。８月６日、16日、９月20日には、担当学芸員によるギャラリートークを行った。

特 別 展　飛鳥の祝歌　絹谷幸二展

会　　期：令和５年10月７日（土）～12月３日（日）（開館日数：50日間）
会　　場：奈良県立万葉文化館（日本画展示室）
主　　催：奈良県立万葉文化館
特別協力：絹谷幸二 天空美術館
後　　援：奈良テレビ放送、奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社
近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社、奈良県教育委員会
入館者数：2,800名（1日平均56名）



展覧会チラシ

【開催趣旨】

絹谷幸二（1943～）は奈良市に生まれ、幼い頃から興福寺や東大寺など歴史的環境に囲まれて育った。東京藝術大学油画科に入学し、同大学院壁画科でアフレスコ技法と出会い、技法習得のためヴェネツィア・アカデミアに留学し、帰国後は独創的なスタイルと精力的な作品制作で、数々の美術賞を受賞。また、東京藝術大学や大阪芸術大学で後進の指導に当たるとともに、若手芸術家を支援する「絹谷幸二賞」の設立や文化庁主催の「子供夢・アート・アカデミー」など、次代を担う若者たちに創造の喜び、楽しさを伝える活動も精力的に行っている。2021年には文化勲章を受章し、日本の美術界を牽引する存在として活躍し続けている。

本展では、絹谷幸二の作品のなかから、奈良の風景を描いたものや、奈良県内各地の『古事記』の伝承地を訪れて制作された大作群、また、奈良の風土が育んだ仏教思想を題材とした作品など、とくに奈良との深い関わりを示す作品を中心に紹介し、絹谷藝術の本質に迫る。

【関連イベント】

10月14日に絹谷幸二氏の記念講演会、翌15日には絹谷幸二氏のギャラリートークを開催した。会期中には、絹谷幸二氏と絹谷幸二 天空美術館の坂本博孝氏、髙橋暁生氏、西野真也氏を講師に招き、ファミリープログラムワークショップ「アフレスコを体験してみよう」（11月５日）、ワークショップ「アフレスコを描こう」（11月17日）を開催した。絹谷幸二氏の指導のもと、漆喰を塗ったレンガを壁にみたて、その上から絵を描くアフレスコ技法を実際に体験した。10月８日、18日、11月15日には、担当学芸員によるギャラリートークを行った。また、本展にあわせて展覧会図録の制作をした。

絹谷幸二 天空美術館では、連携展示「ヴェネツィア祝歌」（７月７日～12月10日）を開催をし、11月17日、18日には、やまとびとツアーズ主催で展覧会関連企画ツアー「画家・絹谷幸二を育てた奈良～作品の原風景を訪ねる～」を催行した。

（平出実乃里）